

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成29年3月17日
調査研究事項	《委託研究Ⅰ》 【市川市立大洲中学校】 ・学習指導に関すること
調査研究のねらい	さまざまな国籍の生徒が多く在籍している現状の中で日本語の習熟度や学習に対する取り組み方が異なる生徒に対しての教科指導が課題であると考えている。 そこで、生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導方法について研究し、生徒のニーズに対応し個々の学力向上につなげることを目的とする。
調査研究の成果	別紙のとおり

別紙

1 生徒の実態

在籍生徒の多くは15歳以上の新渡日外国人である。特にアジア諸国出身の生徒が多い。年齢は10代から60代と幅広いが、近年は10代の生徒が増えてきている。出身国での修学年数の違いや日本語習得状況、学ぶ目的の違いなど多様な生徒が集まっている。また、本年度は既卒者が1名在籍し他の生徒たちと交流を深めていた。既卒者の学習指導は、本人の習熟度に合わせて、履修し、授業に対して「できた」「わかった」というつぶやきが聞こえた。

2 調査研究の目的

【市川市立大洲中学校】(学習指導に関すること)

アクティブラーニングの手法を取り入れながら、個に応じた効果的な指導方法及び学習内容について研究し、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と学習意欲の向上を図ることを目的とする。

(1) 本年度の取組について

「生徒が主体的に取り組むとともに学ぶ喜びを感じることでできる自主教材の作製」を中心に次のような取組を行なった。

ア 教員研修

- ・ 9月 数学において、「平面図形の作図」をテーマに英語が理解できる生徒向け研究授業を行った。
- ・ 10月 「外国人生徒理解」のため、行政書士と意見交換、質疑応答を行った。
- ・ 10月 日本語教師を招いて、現在の外国人たちが、どのようなニーズを持っているのかと、日本に来日する外国籍の方々の特徴等と外国籍の進路等も講話して頂いた。
- ・ 11月 渡日して間もない生徒の日本語習得のため、「日本語の教え方」の基本教授法について日本語教師を招き、講義を受け、意見交換を行った。
- ・ 11月 理科の「化学反応式」の授業で、視聴覚機器やパワーポイントを活用した授業展開の研究授業を行った。

イ 授業実践

本校夜間学級では、日本語学級を設置しておらず、日本語担当教師が配置されていないため、日本語指導を行いつつ授業展開をしていく必要がある。そこで

- ① 自主教材を作成するにあたり、漢字にルビをふり日本語が伝わりやすくした。
- ② 音楽の中での実践として、歌詞を優しい日本語に置き換え、パフォーマンス（体全体で表現する）で伝える授業を行った。
- ③ 視覚で対応できる授業（社会のVTR教材、理科の演示実験など）から理解を深める実践を展開した。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ アンケート調査などから、生徒は授業全体に対して満足している様子であった。また、定期テストの平均点も昨年より上昇している。このようなことから、生徒が主体の授業展開ができた。学ぶことの楽しさ理解してもらうことにより、学習意欲がさらに増し、深化学習が進んだ。

(2) 課題

- ・ 英語圏以外の母語をもつ生徒に対して、よりわかりやすく授業を展開するための方策として、視覚でわかる教材開発が必要である。
- ・ 主体的に生徒が自ら考え、何を学ぶかを考えさせる方法も継続して研修する必要がある。
- ・ 既卒者に対しては、習熟度に合わせた授業内容を提供できるように準備をする必要がある。
- ・ 不登校生徒に対しては、安心して登校できるような環境と通常の学級に通学できるまでにどのような対応ができるかを研修する必要がある。